

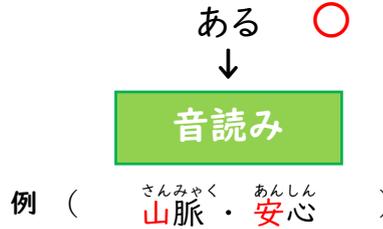
音読みは中国由来でそれだけでは意味が分からないことが多い。
 訓読みは日本古来の言葉でそれだけで意味が分かることが多い。
 例外は存在するので各パターンにあてはまらないものは覚える！

様々な見分け方を確認しましょう。

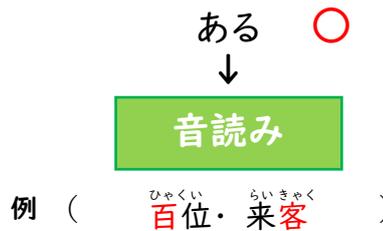
拍目とは？ 例えば「太陽」を読むと「たいよう」
 太の1拍目が「た」2拍目が「い」 陽の1拍目が「よ」2拍目が「う」となる。

その1 2拍目に「ん」が入る。

※ 「金」「銀」などは意味は通じるが、音読み。
 →「きん」「ぎん」と読んだ場合。



その2 拗音 (^{ようおん} きゃ・ぎゃ・ぴゃ) など..



その3 同じ形のパーツがある。

※ 「険」「剣」「検」→ケン
 「銅」「同」「胴」→ドウ



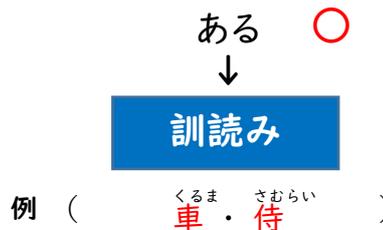
その4 送り仮名がある。

※ 「～する」「～じる」は送り仮名があるが、
 音読み+する(じる)と考える。
 例: 察する・生じる・投じる



その5 3拍以上ある。

※ 3拍以上でも拗音があれば訓読み。
 (シャ)などは1拍扱いになる。



その6 2拍目が (ウン・チク・キツ・イ)

※ 2拍で終わる読みで音読みならば上記が入る。

2拍目に上記がなければ訓読みとなる。
 ただし、町(まち)柿(かき)など2拍目が上記の場合でも訓読みは多数あるため注意が必要。

